実験学習を拡げる

教職員 福利と厚生のために

九州一周コース

このコースもことしですでに十六回目を迎えた。九州の全貌がこのコースでほとんど理解できるので、毎年、人気コースのひとつとなっている。博多から虹の松原、唐津を経て伊万里、平戸へ。佐世保、西海橋から長崎へ入り、平和祈念公園やグラバー邸唐人館など異国味あふれる個所を研修して雲仙で泊る。そして島原、会津、熊本を経て内牧。阿蘇山を見学して広大な草千里、やまみハイ・ウェイを通って別府に入り、地獄めぐりを見学して宿泊。さらに延岡から古墳で有名な西都原を経て宮崎。宮崎神宮、はにわ公園、青島を研修後、同所で宿泊する。サボテン公園、鵜戸神宮から日南海岸を経て桜島口、袴腰から鹿児島へ渡り指宿で宿泊。長崎鼻、池田湖城山公園、磯公園、尚古集成館などを見学して鹿児島空港―大阪空港―東京空港へ帰る。全行程冷房バスで快適な旅が楽しめる。

【実施】北海道、東北、関東、北陸、東海。

伊賀・吉野・飛鳥コース

名古屋から亀山へ入り、忍者で有名な伊賀上野へ。赤目滝口、四十八滝から室生寺、長谷寺、橿原神宮、壷阪寺から吉野へ入り、吉野朝の悲劇を探る。装飾古墳の発見で大きな話題を生んだ飛鳥では各所で古文化財や伝板蒼宮跡の発掘調査の現況を解説づきで研修する。たしかに「歴史の白い幽気が描く、さまざまの幻想を描かせる飛鳥である」(寺尾勇氏)といえる飛鳥だ。多武峰から大神神社(三輪明神)天理市で美術館も見学する。

【実施】北海道、東北、関東、新潟、九州。

山陽・山陰コース

毎年、人気を集めているこのコースも山陽新幹線の岡山開業でますます便利になった。広島から宮島へ、岩国、錦帯橋を経て鐘乳洞として世界的に有名な秋芳洞、秋吉台を研修、長門湯本で宿泊する。青梅島から萩へ、そして三瓶高原に出る。出雲大社に詣でたあと松山に入り、市内各所を見学、さらに米子から大山寺へバスで登る。倉吉を経て三朝温泉泊り。鳥取では砂丘を見学、玄武洞から天ノ橋立へ。各所での研修行事も多く人気コースのひとつ。

【実施】北海道、東北、関東、北陸、東海。

四国一周コース

オリーブの実のたわわな四国。お遍路さん姿もみられる静かな島。高松から屋島、栗林公園、琴平、松山を経て道後温泉泊。石手寺、子規堂、松山城などを研修して宇和島へ。船越からは鹿島海中公園を鑑賞しながら宿毛、竜串を経て土佐清水。雄大な足摺岬から桂浜・高知市へ入る。高知城、竜河洞、大危歩・小危歩をを研修後徳島へ。鳴門から船で福良、岩屋からまた船で明石へ行く。東京基点で六泊七日の旅。

【実施】北海道、東北、関東、北陸、東海。

南西諸島コース

亜熱帯の奄美大島、徳之島、沖永良部島など日本南端の辺境を研修するコース。毎年実施しているが、ことしは学術研究を行なう教職員のために見学個所などをさらに充実してある。奄美ではハブ生態研究所や大島紬の生産工程、徳之島では風葬あとなど異色な研修が組まれている。

【実施】北海道、東北、関東、北陸、東海、中国、四国、九州。

沖縄コース

近く祖国に復帰する沖縄を新たな視点で研修するもの。三泊とも那覇で島内を詳細に見学するが、第一日は白梅の塔、ひめゆりの塔、健児の塔など戦火に散った若人たちの慰霊塔に参拝、琉球大学や守礼の門、中城城跡、あるいは激戦地だった嘉手納で遥かな日をしのび、波高い南海の島々を鑑賞する。

【実施】北海道、東北、関東、北陸、東海、中国、四国、九州。

公的機関が支援

補助金や休暇などで

全修協企画の教職員研修旅行にたいして各都道府県の公的機関はこれを支援しており、公費から旅費の補助金を交付したり、あるいは特別休暇、研修休暇、専免などの特典も付与したりしているところがふえつつある。補助金を出しているのは北海道教委、山形県教職員互助会、福島県教職員互助会、千葉県、石川県教職員互助会、山口県教職員互助会、青森県教職員弘済会、新潟県教職員厚生財団、兵庫県学校厚生会現職互助部などである。

すばらしい企画

池沢弘人

はじめて研修旅行に参加したのは小学校長を退職した昭和三十四年のことだ。それから毎年参加しているのでもう十三回になった。学校という職域が中心になっているので一般の団体旅行のような不愉快さがなく、とても楽しい。

現地での講演や見学は有意義で、教職に携わるものにとっては貴重なものばかりだ。教育現場では体験を生かすことが必要であるからだ。特色をあげればきりはないが、会費は一般業者のものより三分の一は安いようだし、旅館はすばらしいところを選んであり、申し分がない。これも全修協が教職員のために奉仕してくれているためではないかと思う。もう行くところがなくなったのでことしは新設コースの陸中海岸へ行くつもりだ。

＝元東京都石神井西小学校長

昨年度写真コンクール応募作品（カラー）九州一周コース
「石仏」土屋順氏（静岡）

南近江と若狭・越前へ

東京私学の現地研修会

第九回東京私学修学旅行現地研修会は全修協主催、東京私立中学高校修学旅行研究調査会協賛、滋賀県、信楽町、福井県などの後援で八月二十一日から同二十五日まで行なわれる。ことしは〝南近江と若狭・越前の探究〟として、琵琶湖南と信楽の里を中心に、若狭から越前へと足をのばす。会費は二万九千三百円(東京―福井間で国鉄運賃料金値上り分を含む)定員は八十名。古橋博、新井福之助両氏のほか現地の講師が解説にあたる。

申込み締切りは六月末日。日程は次の通り。

【第一日】東京―京都―琵琶湖大橋―びわ湖パレイ―日吉神社―延暦寺―近江神社―大津京跡―びわ湖ツーリスト社、己高閣)―賤が岳―若狭国分寺―神宮寺―若狭彦神社、万徳寺―小浜泊り【第四日】小浜港―蘇門洞―小浜港―美方(梅丈岳、三方五湖)敦賀(気比神社)―鯖江―福井―東尋坊―芦原温泉泊り【第五日】旅館―丸岡城―永平寺―福井駅。

なお福井駅解散後、能登半島や立山、黒部、京都、大阪方面を希望するときは全修協で相談に応ずることになっている。

会費一覧

夏季研修旅行の会費は次の通りカッコ内の上段はおとな、下段は小学生の料金。ただし国鉄・航空機の運賃、料金が値上りのばあいは、その差額を申し受けます。また、航空機を利用するコースの幼児は航空料金だけを戴きます。詳細は問い合わせ、申込先にお問い合わせください。

北海道一周Aコース▼青森―青森(四万六千五百円、三万二千六百円)▼仙台―仙台(四万七千五百円、三万三千三百円)▼上野―上野(四万八千五百円、三万四千円)▼名古屋―名古屋(五万一千八百円、三万六千二百円)▼新大阪―新大阪(五万二千四百円、三万六千二百円)▼博多―博多(六万三千三百円、四万二千二百円)

北海道一周Bコース▼上野―東京突港(五万四千円、三万七千八百円)▼新潟(五万一千百円、三万五千百円)▼富山―富山(五万四千円、三万七千八百円)▼金沢―金沢(五万五千円、三万八千四百円)▼福井―福井(五万四千九百円、三万八千四百円)▼名古屋―名古屋(五万九千三百円、四万一千五百円)▼大阪―大阪空港(五万七千三百円、四万百円)▼博多―博多(六万七千四百円、四万七千二百円)

北海道秘境コース▼札幌―札幌(四万五千五百円、三万一千九百円)▼東京空港―東京空港(六万八千五百円、四万八千円)▼新大阪―新大阪(七万五千円、五万二千五百円)▼博多―博多(八万二百円、五万六千百円)

九州一周コース▼東京―東京(五万五千六百円、三万八千九百円)▼名古屋―名古屋(五万八百円、三万五千六百円)

東北一周コース▼上野―上野(三万七千九百円、二万六千五百円)▼新大阪―新大阪(四万三千九百円、三万七百円)▼博多―博多(四万九千六百円、三万四千七百円)

陸中海岸コース　▼上野―上野(三万七千七百円、二万六千三百円)▼新大阪―新大阪(四万一千六百円、三万九千百円)▼博多―博多(四万八千六百円、三万四千円)▼博多―博多(四万八千六百円、三万四千円)

佐渡・磐梯・蔵王コース　▼上野―上野(三万二千九百円、二万三千円)▼新大阪―新大阪(三万八千二百円、二万六千七百円)▼博多―博多(四万四千三百円、三万一千円)

中部山岳コース　▼東京―東京(三万八千二百円、二万六千七百円)▼新大阪―新大阪(三万一千四百円、二万二千円)▼博多―博多(四万四千円、三万八百円)

能登・越前コース　▼上野―東京(三万一千六百円、二万二千百円)▼博多―博多(三万六千七百円、二万五千七百円)

伊勢・志摩・紀州コース　▼東京―東京(三万四千九百円、二万四千四百円)▼博多―博多(三万八千円、二万六千六百円)

伊賀・吉野・飛鳥コース　▼東京―東京(二万九千九百円、二万九百円)▼博多―博多(三万四千二百円、二万三千九百円)

山陽・山陰コース　▼東京―東京(四万二千六百円、二万九千八百円)▼新大阪―京都(三万七千円、二万五千九百円)

四国一周コース　▼東京―東京(四万一千五百円、二万九千五百円)▼大阪港―新大阪(三万四千三百円、二万四千円)

南西諸島コース　▼東京空港―東京空港(五万八千五百円、四万一千円)▼大阪空港―大阪空港(五万四千円、三万七千八百円)▼鹿児島空港―鹿児島空港(四万二千円、二万九千四百円)

沖縄コース▼東京空港―東京空港(七万三千百円、五万一千二百円)▼大阪空港―大阪空港(五万九千百円、四万一千四百円)▼福岡空港―福岡空港(五万四千五百円、三万八千二百円)

日教組ヨーロッパ教育事情視察コース▲東京空港―東京空港(四十一万三千円)

南近江と若狭・越前の探究コース(東京私学)▼東京―福井(二万九千三百円)

写真コンクール

恒例の北海道知事賞も

参加者から好評を得ている研修旅行写真コンクールは本年も実施される。研修旅行を協賛している北海道庁恒例の〝知事賞〟一点のほか賞金、賞品も多数用意されている。応募規定は決定しだい全修協各支部、協力機関に通知するほか「修学旅行新聞」でもお知らせする。

参加ご希望の方へ

研修旅行にご参加ご希望のかたは適当な用紙に住所、氏名、年齢性別、電話、勤務先をお書きの上、申込金を添えて六月三十日までに下段の申込先きにお申込み下さい。

研修旅行 問合わせ・申込先一覧表

(北海道・東北)

北海道　札幌市南三条西十二丁目　北海道教職員組合(電)〇一一(561)八二八六
青森　青森市橋本一―二―二五　教育会館内　青森県教育厚生会(電)〇一七七(34)〇二一一
秋田　秋田市中通り一―四―三二　秋田県学校生活協同組合(電)〇一八八(32)六六五六
岩手　盛岡市大通り一―一―一六　教育会館内　岩手県学校生活協同組合(電)〇一九六(23)三三〇一
山形　山形市緑町二―二―五四　山形県教職員互助会(電)〇二三六(31)五一一五
宮城　仙台市柏木一―二―四七　宮城県学校生活協同組合(電)〇二二二(34)五一一一
福島　福島市杉妻町二―一六　県庁福利課内　福島県教職員互助会(電)〇二四五(21)一一一一

(関東)

栃木　宇都宮市本町一―一〇　県連合教育会気付　全修協栃木県支部(電)〇二八六(22)二九五五
茨城　水戸市三の丸一―一―四二　教育会館内　全修協茨城県支部(電)〇二九二(21)二三九二
群馬　前橋市住吉町一―三―一一　群馬県学校生活協同組合(電)〇二七二(31)六一一〇
埼玉　浦和市高砂三―一―二―二四　教育会館内　全修協埼玉県支部(電)〇四八八(22)五九五一
千葉　千葉市中央四―一三―一〇　県教育会館文化事業部(電)〇四七二(27)六一四一
東京　千代田区西神田二―八―七　幅ビル内　全修協東京都支部(電)〇三(262)二四二六・二九三二
神奈川　横浜市西区藤棚二―一九七　教育会館内　全修協神奈川県支部(電)〇四五(241)三五三一・三五三六
山梨　甲府市丸の内三―一―一―四　教育会館内　山梨県教職員組合(電)〇五五二(22)一五四一
長野　長野市旭町一〇九八　教組会館内　県学生協気付　全修協長野県支部(電)〇二六二(34)三一六一

(北陸・東海)

新潟　新潟市東中通一―八六　県教職員厚生財団気付　全修協新潟県支部(電)〇二五二(28)三五八一
富山　富山市舟橋北町七―一九　富山県教職員厚生会(電)〇七六四(32)一一五二一
石川　金沢市香林坊一―二―四〇　教育会館内　石川県学校生活協同組合(電)〇七六二(62)〇二八一
福井　福井市大手町二―二二―二八　教育センター内　福井県教職員組合(電)〇七七六(23)一八八七
静岡　静岡市駿府町一―一二　教育会館内　静岡県教職員互助組合(電)〇五四二(54)三六二六
愛知　名古屋市中区錦一―一五―一三　佐久間ビル内　近畿日本ツーリスト気付　全修協名古屋分室(電)〇五二(231)一五二一
岐阜　岐阜市美江寺町二―一　教育会館内　岐阜県学校生活協同組合(電)〇五八二(63)二九〇三
三重　津市桜町一―一三―一二　県合同ビル内　三重県公立学校職員互助会(電)〇五九二(26)五三四

(近畿)

滋賀　大津市京町四―一―一　県教委福利課内　滋賀県教職員互助会(電)〇七七五四(24)一一二一
京都府　京都市左京区聖護院川原町四―一三　京都府教職員互助組合(電)〇七五(771)六一八六
京都市　京都市中京区両替町通御池上ル金吹町　京都市教職員互助組合(電)〇七五(221)二二五三
奈良　奈良市登大路町　県教委福利課内　奈良県教職員互助組合(電)〇七四二(22)一一〇一
和歌山　和歌山市上野町二―三　和歌山県教育関係職員互助会(電)〇七三四(31)〇二〇一
大阪府　大阪市天王寺区東高津町一二―二一　教育会館内　大阪府教職員互助組合(電)〇六(762)七三六一
大阪市　大阪市北区中之島一―四　大阪市教職員互助組合(電)〇六(231)八一六〇
兵庫　神戸市生田区下山手通四丁目　県庁庁舎内　兵庫県学校厚生会現職互助部(電)〇七八(34)七六七六

(中国・四国)

岡山　岡山市内山下二―五―七　丸の内会館三〇五　全修協岡山県支部(電)〇八六二(23)六九五一
広島　広島市国泰寺町二―一―一九　広島県学校生活協同組合(電)〇八二二(43)一二二一
　広島市平野町八―一五　福祉会館内　広島県高等学校生活協同組合(電)〇八二二(44)三三一一
山口　山口市中河原　教育会館内　全修協山口県支部(電)〇八三九二(2)〇三八三
島根　松江市殿町八　島根県学校生活協同組合(電)〇八五二(21)三七八六
香川　高松市番丁五―一―一　教育会館内　全修協香川県支部(電)〇八七八(31)二四三一
徳島　徳島市徳島町二―一二―二　教育会館内　県学生協気付　全修協徳島県支部(電)〇八六六(22)三〇九〇
愛媛　松山市清水三丁目　県学生協連合会気付　全修協愛媛県支部(電)〇八九九(41)四一七八
高知　高知市旭町二―三―二五　(株)四国教材内　全修協高知県支部(電)〇八八八(22)七二三七

(九州)

福岡　福岡市天神四―八―一〇　福岡県教職員互助会(電)〇九二(75)四二五六
佐賀　佐賀市松原町二―二―一二　教育会館内　全修協佐賀県支部(電)〇九七五二二(3)五八八七
長崎　長崎市上町五―六　県教・弘気付　全修協長崎県支部(電)〇九五八(22)一三〇五
大分　大分市金池町三―二―三　教育会館内　大分県教職員互助会(電)〇九七五(32)九二〇一
熊本　熊本市京町一―五七　教育会館内　熊本県学校生活協同組合(電)〇九六三(55)七二六五
宮崎　宮崎市橘通東一―九―三六　教育会館内　全修協宮崎県支部(電)〇九八五(22)七九七五
鹿児島　鹿児島市山下町一五―七　自治会館内　鹿児島県教職員互助組合(電)〇九九二(26)一〇一〇

研修旅行の作品

原生林と荒波と

北海道研修旅行の記録

小野井信子

はじめに＝未知の北海道の踏み来たった道をかえりみる楽しみ。

旅の心は、目に入るもの、耳に触れるものを通して、心にあわれをそそらずにはおかない。旅の心は、いやが上にも感じ易く、動き易く、揺ぎ易いものである。

私は、私のこの心を、未知の北海道で素直に集録してみたいと思ったのである。

興奮のシャッターと、せん細な心づかいのテープから「北海道旅情」「北海道歌の旅」「北海道クマとアイヌ」の三巻の企画構成が完成したときの喜びはまた格別である。

また、この集録を構成したものを写すことは、旅行後、床の間に飾りつけた木彫のクマや木彫のアイヌを見る以上の楽しみがある。

毎日毎日、一度は上映してみないと気がすまない。

とうとう、友人にも披露したくてたまらなくなり、「北海道旅情試写会」と称し、「旅行集録の仕方についてアイディアを聞く趣味の会」とこじつけてよび、あのグループ、このグループと私の関係している友人たちをわが家に招く。

これから後も、私の独善というベールの中で、未知の北海道の踏み来たった道を、何回となくひそかに楽しみつづけることであろう。それは、北海道という大自然の大きな魅力への愛着があるからである。

＊実写例（これは百八枚のスライドとテープ構成の中から二、三を抜き出したものです）

【ここがわたしのふるさとかしら？】スライド＝バスガイド嬢。

北海道を尋ねて、まず、驚くことの一つは歌が多いということである。しかもその歌は哀調を帯びたものが多い。

果てしなくつづく、りっぱな国道が、大陸のような北海道の観光地を結ぶ役目を、観光者のために果しているといえば、音もなく走りつづける快適なバスに乗って、終日、旅情を楽しませてくれるガイド嬢の歌もまた、大自然の母の役目を果してくれる。旅行者は、この哀調を帯びた母のふところに何日も抱かれていると〝ここが、わたくしのふるさとかしら〟と疑う。北海道は、大自然の母であるからであろうか。

【昭和新山と洞爺湖と】スライド＝昭和新山、洞爺湖。

おお、この、まっ赤な山肌。まっ赤な、まっ赤な肌。これこそ、男性的な雄々しい姿である。この男性的な素肌が、緑の山々と、青空と、流れ行く白雲の女神たちを浮ぶがごとく、また、女神たちを近づけまいとするがごとく。ああまさに北海道夏の一大魅惑ではなかろうか。

海のように果てしなくつづく。まさに大湖である。北海道は夏を迎えたばかりであろうか。とうまく山々の緑は若くて美しい。三十分ごとに発着する洞爺湖めぐりの遊覧船も、神秘の海に写して詩情を強くそそる。昼はスケールのすばらしく大きい水彩画であり、夕ぐれともなると、しだいに一大墨絵に奇しくも妖変するさまは、旅人の足を留めずにはおかない。

【八月の原生花園よ、うらまないでおくれ。さようなら】スライド＝素肌の原生花園、ゴメ、放牧能取灯台。

原生花園は、六月の花盛りもとっくに過ぎて、夏の静寂にはいっているところである。花の生命はほんとうに短いものである。なのに、カメラを持った人たちは不満を訴える。

毎日毎日、ハマナスの木たちはカメラを持った夏のお客さんからうらまれる。でも、わたしだけは決してお前をうらまない。わたしはお前の素肌を見にきたのだから。きれいな花なら、わたしの庭の中だけでもう結構である。ハマナスの木よ誤解しないでおくれ。わたしがきたのは、素肌のおまえたち原生花園と、地の果てに生きるカモメよりも小さいゴメの群集と広々とつづく原野に、動くともなく草をはむ牛の姿と、だだっぴろいオホーツク海の荒波と、どこに散歩に出かけたのか、帰らざる流水と、北の果ての水平線と……

夏の原生花園よ、さようなら。

【樹齢は神の心】スライド＝大雪原生林、石北峠、供養塔。

大雪山連峰を右手に遠望しながら、えぞ松、とど松の大雪原生林をバスはひた走って登る。美しい山である。これがほんとうの山というものであろう。

石北峠に登りつく。ここは、高いところというのに展望はきかない。それは石北峠よりまた高い原生林でとりかこまれているからである。国道わきの小高いところの樹齢供養塔が人目をひく。一本一本の樹齢を供養するのである。

樹は神であり、神の心である。神の心がこの原生林になるのである。私は思わず敬虔な心で合掌する。眺望はきかなくても、山の空気はおいしい。深呼吸をくりかえすたびに、イカのつけ焼きの臭いと、トウモロコシやバレイショの臭いが口の中に溶けこんでくる。観光客の味覚は、北海道どこでも気楽にたのしめるのである。

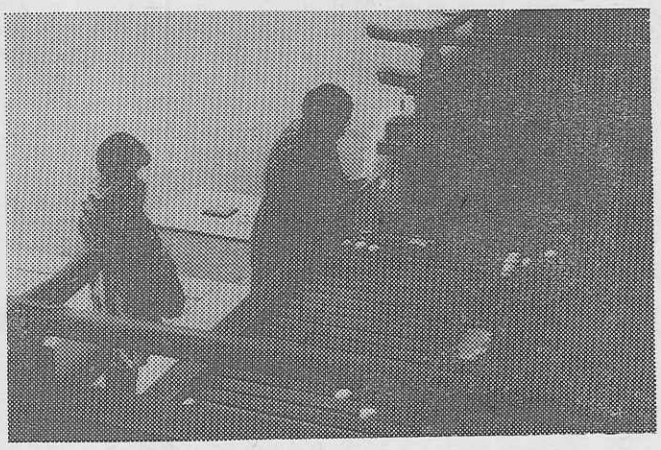
【大きな魅力への愛着】

千歳空港に集ってくる人たちはどんなおみやげを積もうとしているのであろうか。

私の一番のおみやげは「北海道旅情」という作品である。しかしこれ一つ、心の準備をしないで旅立った私に、いったい、どんな「北海道旅情」というおみやげができたのであろうか。

毛深いアイヌ。マリモ。森と湖。スズランと原生花園。雪と氷。さいはての岬。火山と温泉。新鮮な農産物。山野をかけめぐる熊やその他の動物。青い空と白雲。雄大な地平線と大原生林。

旅の目的は、人それぞれ異なるであろうが、私の旅心は、これらの持つ魅力への愛着であるといいたい。私はそのすべてを見る力の弱いのが残念である。そのすべてを見るために、これから何年も何十年も私の旅情はかきたてられつづけることであろう。この大きな魅力への愛着となって…。（昨年度研修旅行北海道コース参加者・山口市白石小学校教諭）



昨年度写真コンクール特選作品（白黒）飛鳥・大和路コース
「明神まいり」吉野てい子氏（埼玉）

身にしみた講演

＝研修旅行をふりかえって＝

徳橋新次

私は旅行をあまり好まない。旅することが嫌いなのではない。最近のあまりにも便利化され、安易にレジャーが楽しめるようになったことが、かえって旅の真の味わいを減殺してしまったことから旅行をしたいという欲求が次第に薄らいできてしまったようだ。

また、観光施設の拡大が自然の破壊をもたらしたり、上っ調子な歓楽の刺激のみを求めてやまない最近の世情に対する一種のレジスタンスからきているのかもしれない。昨年、全修協企画の研修旅行「伊勢・志摩・南紀」コースの添乗を申しつかった際も、誰かほかに代ってくれる者があったら辞退しようというのが本音だった。ところが全日程を無事終了して帰ってきたときの心境といえば、出かける前とは打って変わって、〝行って来てよかったなあ〟という実感のとりこになっていることを自身かえりみて苦笑禁じ得ないところである。

とにかく、旅が自然の変化はもちろん、眼に映じ心に感ずるすべてがフレッシュなものに思われ、日常の惰性に過ごす明け暮れが、ガラリと変わった心境に変えられるところに何とも云えない魅力のあることは申すまでもない。

この旅行中、毎日三十度を越すこの夏最高の暑熱の中の行動であったのにかかわらず何かこう体じゅうが張りをもち、身心ともに快調がつづいて、世態人情の良きは良きなりに、悪しきは悪しきなりに、生き生きとして心の乾板に強く刻み込まれ、充実感をもった毎日が過されたために、暑気にも負けず終始楽しく旅行が出来たのだと思う。

とりわけこの旅行の中でとくに感銘深く（実はこのことが旅行の評判を良くした最大の理由といってもよい）感じられた二つのことがあった。性質の面からは一つのことといってよいかも知れぬが、一つは勝浦（第二日目）の宿での講演であり、他の一つは最終の宿所であった高野山での法話である。

いずれも一日の日程を全部すませ、疲れた身体を宿に運び入れ、一浴して汗を流し去り、漸くくつろいだ気持で夕食の膳にならんだところである。このあと、土産物あさりや娯楽施設に打ち興じようという矢先きのことである。

眼の前には食べ残った食器がそのまま取り片付けもせずに置いてある。おまけに勝浦では隣室で数名のほかの連中が三味線を混えての飲めや歌えやの乱痴気さわぎ、そのやかましい騒音が箇抜けに当方へとび込んでくる。こうしたなかで何の講演じゃ、と誰しも思ったに違いない。

進行係をやっていた添乗員の主任に「今夕はとり止めにして明朝出発前に時間をさいてやったらどうか」と、どれほど申し入れをやろうと思ったか知れない。ところが話が始まってしばらくすると場内の空気が変わってきた。熊野三山の名称やいわれ、宇多法皇から亀山上皇にいたるまでの間に無慮百回近くもご渡御のあったことや幕府が開かれると将軍や諸大名がいずれも遠くけわしい道をのりこえての参詣が実におびただしい数にのぼったことなど、古来からいかに篤い尊崇の対象であったかの史的事実が語られていくにつれ、あたりは全く静粛そのものに化していくのであった。

さらに、意外に感じられたことは、内容のよく判らぬはずの小さな子どもたちまで場内の空気に圧倒されての故であろう、話声ひとつたてないで神妙に聞き入っているではないか。

講師にその人を得、話の内容がすぐれてさえすれば、どんな悪環境をも越えて聴衆の心をひきつけていくものであることを私はこのとき自分の身体をもって、この眼でいやというほど強く思い知らされたのであった。

二つめの高野山については環境としては申し分のない場所といわれよう。しかし、ここでもやはり食後の土産物の調整や、高野の自然の霊気を味わうための散策を予定していた人たちが大部分であったのである。それをわざわざ縛りつけて抹香くさい話を聞かせるまでもないではないかと始めは思った。

ところが、ここでも意外な現象が起った。話の終ったあと、場内のあちこちから「せめてもう一時間は聴きたかった」というつぶやきが聞えたのであった。話の内容は、この坊さんが死刑囚の教戒師として十五カ年つとめたその体験談が主であった。そくそくとして人間の真情をゆさぶるその内容に思わず涙を催させられた者が多かった。〝無財の七施〟という仏教の話が一部語られたが、これも聴衆の心奥に迫り、日常の心構えを省みさせられるものが多々あった。

私は以上の二つのことの経験を通して、人間性の真の姿をあらためて知らされた思いがし、非常な頼もしさを覚えさせられた。

同時に旅行に対して今までの私のとってきた態度は俗にいう〝食わず嫌い〟の感があったと思い、世情の推移に眼をふさぐ老人の一徹にも似たものであったことを素直に認めたいと思う。

このような開眼にも似た尊い体験を得させてもらった今回の旅行を、楽しかったその他の幾つかの事柄とともに、ほんとうにありがたく感じ、感激にたえない気持でいっぱいであるというのが偽らぬ現在の気持である。私の旅行に対する認識は今後、急転回していくことであろう。（研修旅行・伊勢志摩・南紀コース参加、全修協新潟県支部事務局長）

【注】このコースの研修行事として勝浦で那智女子高校長・木内泰夫氏、高野山では金剛峯寺教学部長・麻生恵光師の特別講演が行なわれた。

天竜寺

天竜寺（京都市右京区）

臨済宗天竜寺派の本山。歴応二年（一三三九）足利尊氏が後醍醐天皇菩提のため、亀山殿のあとに建てたもので、夢窓国師の開山。八度の火災で、当初の壮大な面影は失なわれているが、庭園は原形のまま残っている。貴族文化の伝統と禅好みの手法を巧みに生かした点が見どころ。夢窓国師は元（げん）との通商で得た利益を造営にあてたという。このとき使われたのが有名な天竜寺船である。寺宝に絹本着色の夢窓国師像（重要文化財）などがある。

退蔵院

退蔵院（京都市右京区）

臨済宗妙心寺派本山の妙心寺は、もと花園天皇の離宮で多くの重要文化財をもっている。名高い退蔵院はその塔頭（たっちゅう）の一つで山門の西方にある。

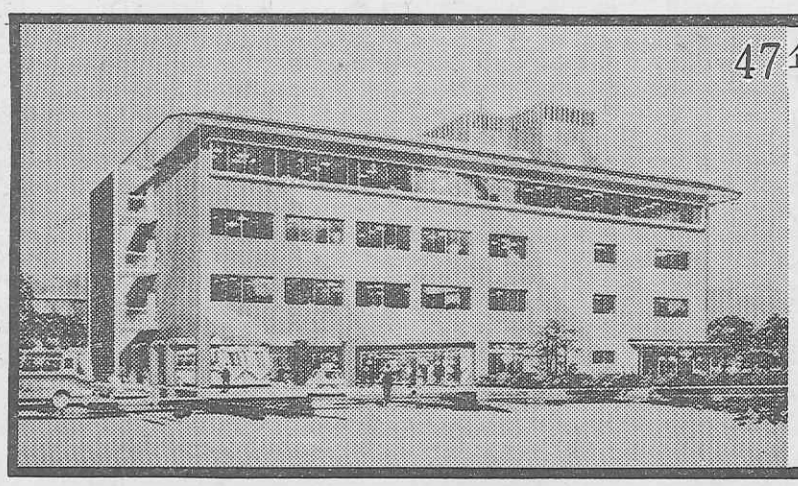
応永十一年（一四〇四）の創立。庭園は室町時代の画家狩野元信の作ったものといわれ、絵画的な手法で枯山水の様式をとり入れた鑑賞・回遊式である。寺内にある如拙和尚の描いた瓢鮎（ひょうねん）＝国宝＝は注目すべき水墨画である。

集印帳

東京、釧路間カーフェリー就航

四月六日から近海郵船

東京と北海道の釧路間にカーフェリーが四月六日から営業を開始した。近海郵船株式会社（岩田昇社長）の「まりも」（九千二百㌧・最大速力二十四ノット）で首都圏と道東千百二十キロを三十時間で直結する。定期便は往航東京出帆毎週火、土の午後二時、釧路入港木月の午前七時。復航は釧路出帆木月の午後一時、東京入港金、火の午後七時。同社では海の新幹線として修学旅行に活用してほしいといっている。



47年3月1日オープン　空も澄む近江路の旅

〈収容〉800名様
〈食堂〉550名席
〈浴場〉1時に150名
〈設備〉全館冷暖房
〈防災〉諸施設完備

《予約受付中》

修学旅行の専用ホテル

大津市におの浜3丁目1－4

びわ湖ツーリスト・ホテル

電話　大津(0775)24－2321(代表)
大津(0775)23－0408(直通)